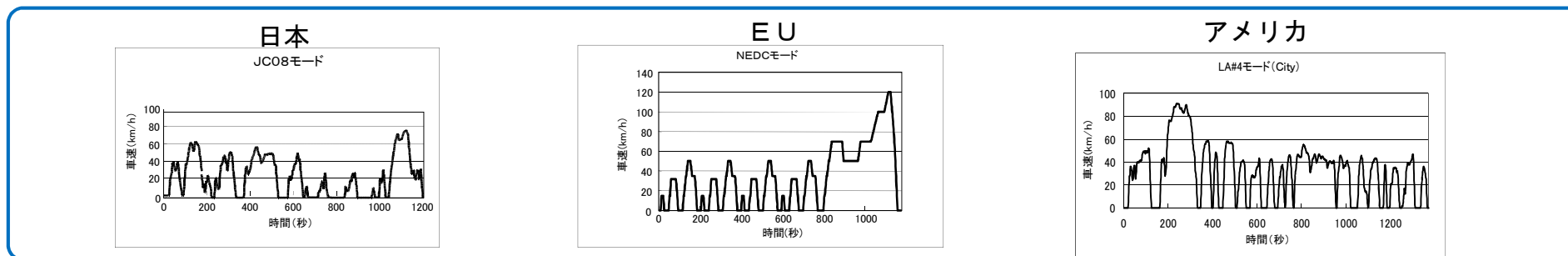


LMH燃費表示について

1. WLTPについて

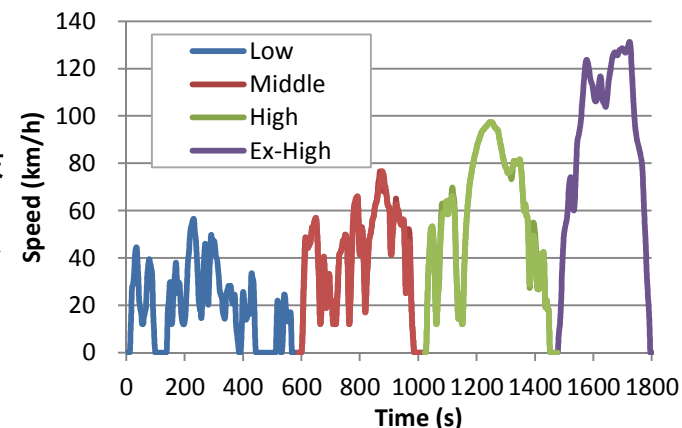


試験サイクル・試験方法の国際統一

- 国連 自動車基準調和世界フォーラム (WP29)
 - ✓ 日本が議論を主導し、2014年3月、第162回WP29にて、WLTP*の世界技術基準 (GTR) が採択済。
※WLTP: Worldwide harmonized Light vehicles Test Procedures

- WLTP国内導入の現況
 - (排出ガス試験法) 2015年2月、中央環境審議会において、2018年までにWLTPを導入することを答申*。
 - (燃費試験法) 2016年3月、本合同会議において、WLTP導入方針をとりまとめ。

WLTPの試験サイクルの一例



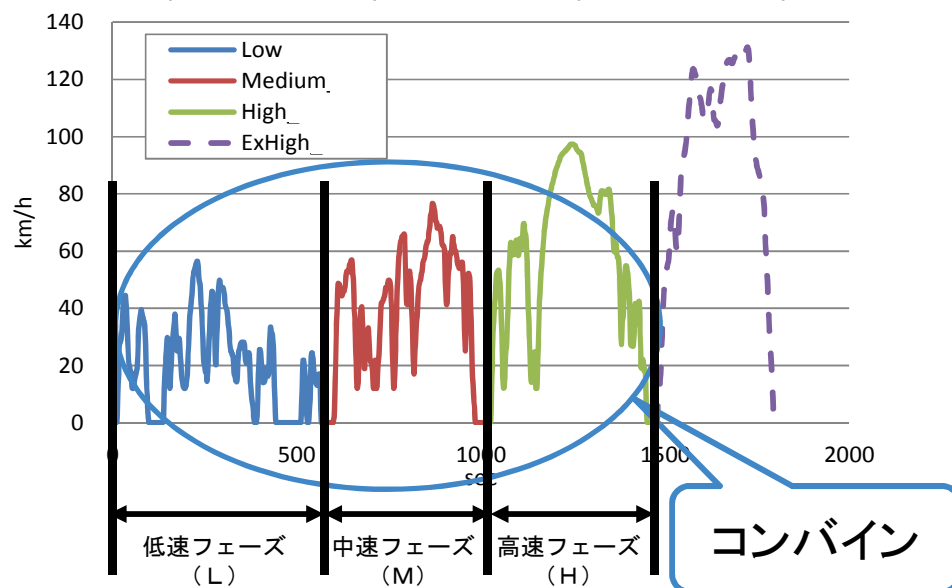
平成28年10月31日に改正告示を公布・施行し、国内導入済

※中央環境審議会「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第十二次答申）」

2. LMH燃費について

- WLTPは、走行パターン別（低速、中速、高速のフェーズ毎）の燃費値の算定が可能。
- 総合資源エネルギー調査会自動車判断基準ワーキンググループ・交通政策審議会自動車燃費基準小委員会の合同会議最終とりまとめ（平成28年3月25日）（抄）
「WLTPの試験サイクルにおけるフェーズ毎（低速フェーズ、中速フェーズ、高速フェーズ等）の燃費値及びその表示方法等については、自動車ユーザーの理解、製造事業者等による更なる省エネルギー化の推進状況及び排出ガス規制対策への取り組みなどの事情を考慮しつつ検討を進めること。」

	L	M	H	コンバイン
最高速度	56.5km/h	76.6km/h	97.4km/h	97.4km/h
平均速度	18.9km/h	39.5km/h	56.7km/h	36.6km/h
道路状況	市街地	郊外	高速道路	-



低速フェーズ(L)

交通量が多く、信号や渋滞等の影響を受ける市街地での走行を想定。

中速フェーズ(M)

交通量が少なく、他の自動車の影響をあまり受けない郊外での走行を想定。

高速フェーズ(H)

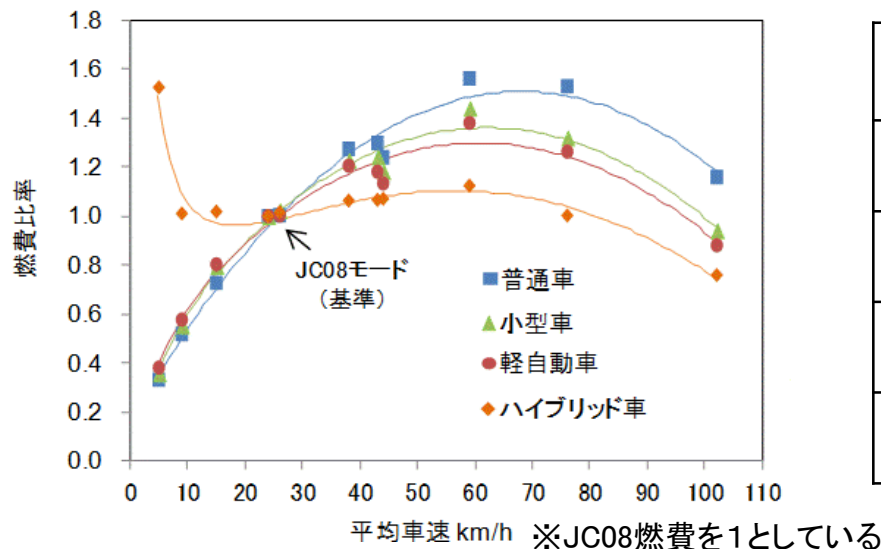
高速道路での走行を想定。

3. LMH燃費表示の導入について

- 道路状況（市街地、郊外、高速道路）や走行方法による平均车速の違いに応じて、燃費も変化する。
- 現在の省エネ法ではコンバインの燃費のみのカタログへの表示を義務付け。
- このため、道路状況や走行方法に応じた燃費の違いがカタログ表示からは自動車ユーザーに適切に伝わらない。

道路状況に応じた燃費(LMH燃費)を表示することで、ユーザー毎の走行環境により合わせた燃費値の比較が可能。

平均车速と燃費の関係



WLTCモードを走行した場合の燃費（例）

	(km/L)			
	コンバイン	L	M	H
A車 (乗用、ガソリン1.5ℓ)	19.29	14.30	20.18	21.95
B車 (乗用、ガソリン1.0ℓ)	19.60	13.45	21.15	22.23
C車 (軽乗、ガソリン0.66ℓ)	19.73	16.92	21.09	20.31
D車 (乗用、ハイブリッド1.5ℓ)	26.62	30.90	24.70	25.45

国土交通省調べ（平成26～27年度）

出典：資源エネルギー庁、平成24年度省エネルギー設備導入等促進事業（自動車実走行燃料消費情報等提供事業）